

3. 旅に対する男女の意識差 ～意識の変化について～

歴史的資料や文学にみられる「旅」の主体や記述者の多くは男性でした。旅に関する多様な事象は経済力や権力のある男性・白人といった強者の視点で語られ、観光客を迎え入れるサービス提供の多くは、女性が担ってきました。

現代では、時間的、経済的な余裕のできた女性たちが海外旅行を始めとした余暇活動全般をリードするようになってきており、女性のニーズを意識した、女性をターゲットにした広告媒体も広く登場しています。観光主体が男性中心から男女両性へと変化していると考えられ、旅に対する男女の意識の差は少なくなっていると考えられます。しかし、その一方で、サービス提供の多くは、相変わらず女性が担っているという、固定的なジェンダー意識もまた存在しています。

2019年度の「海外旅行者の性別・年齢階層別構成比率」をみると、男性の海外旅行の実施率は、20代が12.7%、30代が16.9%、40代が22.7%、と年齢が増すごとに増え、50代以降は、50代が20.8%、60代が12.3%、70歳以上が6.1%とだんだん減少しています。一方女性は、20代が25.8%、30代が16.0%、40代が15.7%、50代が14.6%、60代が10.3%、70歳以上が5.6%と、30代で極端に少なくなり、年齢が増すごとに減少しています。女性の海外旅行の実施率が20代で特出しているのは、結婚するまでに、出産するまでにという「いまのうち意識」が旅行の動機付けとなっているのでしょう。

世論調査によれば、「男は仕事、女は家庭」という考えは近年少なくなっています。しかし旅行の阻害要因で、「ペットがいる」「介護しなければならない家族がいる」といった自宅を離れられない理由を挙げる者の割合が女性に多いことから、男女の固定的な性別役割分業意識の存在は依然として認められます。

参考 前田・橋本(1999)

一般社団法人日本旅行業協会 (2019年度)



4. 女性が一人で旅をすることの意義

日本各地で旅館やホテルを経営する星野リゾートの調査（「一人旅アンケート」）によると、まだしたことのない人にとっては、未知の世界の「一人旅」。「寂しそう」「危なそう」などマイナスイメージも浮かびがちで、二の足を踏んでいる人もいますが、経験者からの回答では、マイナスコメントは少数派。一人旅に病みつきになったリピーターがたくさんいます。経験者の84%が「一人旅、推し」という結果です。

経験者がどのような時に一人旅をしているのかというと、「リフレッシュしたいとき」（22%）、「行きたい場所ができた時」（20%）、「時間的余裕ができた時」（11%）といった回答が主です。古いイメージの「失恋した時」（1%）と答えた人はわずか数名。行きたいと感じたら行くといったライフスタイルの一部になっている人が多いとの事です。

一人旅をする女性の印象は、カッコいい、自立した人など概ね良い印象のようです。

女性こそ、時には、家族や仕事のしがらみから解放され、ストレス発散、本当の自分探しの一人旅をしてみたいかがでしょうか。

参照文献と資料

- 前田勇、橋本佳恵(1999)「観光におけるジェンダー」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』1,pp.48-50
- 高橋さつき(2009)「おもてなしという労働～温泉観光旅館の仕事とジェンダー」『お茶の水地理』No.49,pp.49-65
- 新田功(2014)「観光の原点としての伊勢神宮についての経済的・統計的考察」『新情報』102巻,pp.32-41
- 新村出(編)(1990)『広辞苑 第三版』三省堂
- 山本志乃(2010)「旅日記にみる近世末期の女性の旅「旅の大衆化」への位置づけをめぐる一考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』155巻,pp.2-19

旅とジェンダーの関係について

「江戸時代、旅先の旅籠には“飯盛女”や“客引”と呼ばれる女性が住み込みで働いており、一部では遊女のような働きもしていたと伝えられている。そのためか、下男とよばれる男の働き手に比べ、拘束が厳しく性差による雇用格差が生じていた。」(高橋 2009) という研究報告があります。



「女性は旅をする側ではなくもてなす側にいた」と言われる通り、“おもてなし”という無形のサービスは妻・母親役割といったケア役割、洗練され専門的で整ったマナーが求められるものであり、女性の接客業に求められるジェンダー規範にもとづいた労働をする側にいたということです。

- ★出産や育児、毎日の家事があるから、という理由で女性が旅、とりわけ長期でコストもかかる海外旅行に出かけられないのには、性別役割分業意識が影響していると言えそうです。
- ★旅先での“おもてなし”は誰もが受けたいサービスですし、プロのサービス・接客業は性別に関係なく洗練されています。



5. 旅に出られるようになったら、次のことに気をつけて、旅を楽しみましょう

新型コロナウイルス防止のための「新しい旅のエチケット」(国土交通省観光庁発表一部抜粋)

- 毎朝の健康チェックは、おしゃれな旅の身だしなみ
- マスク着け、私も安心、周りも安心
- 間あけ、ゆったり並べば、気持ちもゆったり。
- 混んでたら、今はやめて、後からゆっくり。
- 狭い場所、混んでる場所避け、安心ナイト。
- 旅ゆけば、何はともあれ、手洗い・消毒。
- おしゃべりをほどほどにして、味わうグルメ。
- 予約とり、並ばず、ゆったり、楽しい観光。
- レジ待ちも、間を空けてゆったりと
- 旅先の状況確認、忘れずに
- スケジュールは、ゆったりのんびり、余裕をもって。
- 握手より、笑顔で会釈の旅美人
- 屋外でのびのび満喫、ニッポンの自然。
- こまめに換気、フレッシュ外気は旅のごちそう
- 楽しくも、車内のおしゃべり控えめに。
- すいた時間・場所を選んで安心観光。
- すいている時間に、安心ショッピング。
- おみやげは、あれこれ触らず目で選ぼう。

- 一般社団法人日本旅行業協会 HP (2021年1月9日最終アクセス) 海外旅行者の性別・年齢階層別構成比率(法務省【令和元年】公表資料(認定値)(2019.3)) <https://www.jata-net.or.jp/data/stats/2018/06.html>
- 国土交通省観光局 HP (2020年10月21日最終アクセス) <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001349264.pdf>
- 星野リゾート HP (2020年10月24日最終アクセス) 「ひとり旅アンケート」 <https://www.hoshinoresorts.com/sp/hitoritabi/>